

卸売市場出荷に向けた 短茎中輪ギクの安定生産

東近江農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

お盆前の時期の需要に対応した切り花長 60cmの中輪ギク(短茎中輪ギク)は、組花加工での扱いやすさから花き卸売市場や加工業者の要望が大きく、県の推進品目として位置づけられています。

昨年度は、育苗期の高温による苗の枯死や花蕾形成期の高温による開花遅延、奇形花の発生により目標出荷率 85%が達成できませんでした。

そこで、普及指導センターでは、新規生産者を含む8戸(うち集落営農4法人)に対し、高温対策に関する支援を重点的に行いました。



写真 短茎中輪ギク出荷前研修会

【普及活動の内容】

(1) 現地巡回

定植準備から収穫、出荷調製まで、週1回以上の現地巡回を行いました。特に、育苗期と花蕾発達期の高温対策については、昨年度の反省点から遮光や散水による昇温抑制が確実に実施されているかを確認しました。

(2) 研修会の開催

JAと連携し、6月と7月の2回集合研修会を開催しました。特に、新規生産者への技術伝達が円滑に進むよう、栽培2～3年目の集落営農法人のほ場において、病虫害管理や摘蕾作業、収穫直前の管理、出荷調製のポイントを説明し技術習得を支援しました(写真)。

【普及活動の成果】

昨年度の1.5倍となる71,456本が卸売市場へ出荷され、出荷率も85.1%と目標を達成できました。また、切り花品質についても高い評価を得ることができました。特に、新規生産者には丁寧に支援することで、栽培管理から収穫出荷調製までの技術について理解が図れました。

◎対象者の意見

盆前出荷作型では昨年度は奇形花の発生などであまり出荷できませんでした。今年度は96.1%の出荷率となり、改善の効果が実感できてよかったです(農事組合法人理事)。